

松戸市水道事業新基本計画 に係る説明資料

松戸市 水道部



目 次

松戸市水道事業新基本計画及び事業計画の策定	1
松戸市水道事業新基本計画【概要】	2
【基礎資料編】	
松戸市水道事業計画	6
施設耐震化計画書	9
松戸市水道事業 アセットマネジメント報告書	11
松戸市水道事業新基本計画 概論	13

松戸市水道事業新基本計画及び事業計画の策定

新基本計画

50年、100年先の理想像を定め、その理想像に向けて今後10年間の取り組み

【理想像】

安全
な水をつくる

強靱
な水道をめざす

安心な水道の
持続

- ・新基本計画に対する実施計画（平成29年度～平成38年度 10年間）
- ・10年間の財政計画、主要施策（施設整備・更新計画）

安全

- ・水質監視
- ・残留塩素濃度の適正管理
- ・鉛製給水管の更新ほか

強靱

- ・施設の耐震化 幸田配水場配水池
- ・老朽管、設備の更新 常盤平浄水場配水池、小金浄水場計装

持続

- ・安定水源の確保 水源、水運用計画
- 井戸の保全

新基本計画の策定について

- ・厚生労働省は、人口減少や節水型社会などへの対応のほか、平成23年3月に発生した東日本大震災を契機に、新水道ビジョンを策定
- ・水道事業者には、「事業計画」「アセットマネジメント」「耐震化計画」の策定を求めています。

安全な水をこれからも供給していくために、計画を策定しました。



事業環境の変化

ハツ場ダム、思川開発の供用開始
総合戦略・次期総合計画の推進

に対応できるよう更新投資を設定

アセットマネジメント報告

【目的】

- ・中長期的な視点に立って、水道施設のライフサイクル全体にわたり、更新需要と財政収支の均衡を図る。

【概要】

- ・法定耐用年数で更新需要を算出すると、向こう100年間で約715億円（年平均7.1億円）。ピーク時の5年間には約60億円の更新需要が発生。
- ・設備や管路に対し重要度・優先度を設定し、更新需要を算出すると、100年間で約548億円（年平均5.4億円）。ピーク時の5年間に約50億円の更新需要が発生。

【結果】

- ・計画期間中に、事業環境の変化に対応できるよう更新投資を設定
- ・マクロマネジメントのステップアップ、事業計画などへ実施結果を反映

施設耐震化計画

- 施設と管路に係る更新計画を策定
- 施設の耐震化の方針として、幸田配水場と常盤平浄水場の配水池の耐震化を行う。
- 管路の耐震化の方針として、病院・避難所などの重要拠点への送水を確保する観点から基幹管路とそれ以外の管路（配水支管：老朽管）の更新計画を策定
 - ・老朽管の更新方針として、アセットマネジメントの更新基準を適用すると平成50年代以降、更新費用が増大していく。事業費平準化を図るため、今後10年間に重点的に取り組む。
 - ・基幹管路（約23km布設のうち約5kmが耐震化）については、法定耐用年数を目途に更新を行うこととし、耐震化路線を選定の上、耐震化を進めていく。

（耐震化済みの管路延長は平成27年度末）

松戸市水道事業新基本計画【概要】

松戸市水道事業新基本計画の策定にあたって(第1章)

- 高度経済成長期に設置した水道施設の更新時期が到来
- 災害時においても給水を行うための施設水準の向上や、人口減少下において規模に見合った施設整備など、水道事業の安定性と持続性が求められている。

松戸市水道事業の概要(第2章)

- 昭和 37 年 2 月に小金地区へ給水を開始、昭和 45 年には旧日本住宅公団から常盤平地区の水道事業が移譲
- 給水人口は約 7 万 8 千人、一日最大給水量は約 2.4 万 m³で普及率は 99.94% (平成 27 年 3 月末日現在)

【施設概要と水源】

- 小金浄水場、幸田配水場、大金浄水場、常盤平浄水場
- 管路の総延長は、約 216km (平成 26 年 3 月末日時点)
- 水道原水は、区域内 19 ヶ所の深井戸水と北千葉広域水道企業団からの水道用水を受水

松戸市水道事業新基本計画について(第4章)

○ 50 年、100 年先の理想像を定め、その理想像に向けて今後 10 年間の取組み 計画期間 平成 29~38 年度

○ 新基本計画の基本理念と理想像

- 水道事業を取り巻く環境は大きく変化していますが、水道水に求められる価値は今後も変わらないことから、前回の基本計画に掲げた**基本理念**を継承しました。
- 基本理念を支える**理想像**を「安全」「強靱」「持続」の3つの観点により諸施策を展開していきます。

【基本理念】『いつでも安心して水道水が使えるようにします』

【理想像】

安全

な水をつくる

強靱

な水道を目指す

安心な水道の
持続

○ 新基本計画は、松戸市総合計画の一部門計画であり、人口ビジョン及び総合戦略と整合を図りつつ、健全経営に努めながら諸施策を推進



後期基本計画(実施計画、(~H32 年度))、総合戦略(H27~H31 年度)の推進により、給水区域内人口、使用水量等、事業運営に影響を及ぼすことが想定されます。そこで、新基本計画の進捗管理においては、社会経済情勢等の変化に加え、事業の有効性や経営状況などを検証し、新基本計画の見直しを図りながら、事業の着実な遂行を目指していきます。

理想像実現のための施策体系について

基本理念	理想像	理想像実現のための施策体系	現状・課題(第3章)	施策概要(第5章)
い あ ん し く な 水 を つ く る こ と を し て い く ま す	安全 な水をつくる	水質監視の継続	【計画書 P15.20】 ○水質検査による安全性の確保	【計画書 P35】 ○北千葉広域水道企業団との共同検査体制の継続 ○給水区域内の水質監視の継続、強化策の検討
		残留塩素濃度の適正管理	○水質検査による安全性の確保	【計画書 P35】 ○給水栓等での定期的な残留塩素濃度の測定監視 ○濃度測定による残留塩素濃度の低減化・平準化
		水安全計画の策定	【計画書 P15.20】 ○水質汚染物質や異臭味被害への対応	【計画書 P36】 ○水源から給水栓までの水質安全管理に係る水安全計画の策定
	強靱 な水道を目指す	鉛製給水管の更新	【計画書 P20】 ○水道水への鉛の溶出	【計画書 P36】 ○鉛製給水管の更新
		耐震化計画の推進	【計画書 P17,P19】 ○浄配水場及び管路の更新と耐震化	【計画書 P37】 ○耐震化計画に則った水道施設の更新を含めた耐震化(幸田配水場・常盤平浄水場配水池並びに老朽管の更新)
		災害対応の強化	【計画書 P24・25】 ○地域防災計画に基づく災害体制の整備、○応急給水資材の確保 等	【計画書 P38】 ○危機管理マニュアルの確認、重要給水拠点の把握 ○応急給水資材の充実、応急給水訓練の実施 等
	安心な水道の 持続	情報の充実	【計画書 P23】 ○水道事業への理解の促進	【計画書 P39】 ○広報誌(水道まつど)の発行、ホームページでの情報公開 ○水道水のPR活動(地域イベントへの参加)や施設見学会の実施 等
		職員研修の充実	【計画書 P23】 ○水道業務動続年数の短期化	【計画書 P39】 ○水道技術・経理職員の各種研修会への参加
		民間活用を検討	【計画書 P14,17,21・22】 ○給水収益の減少、○浄配水場の老朽化、○施設配水能力と配水量の乖離	【計画書 P40】 ○第三者委託や官民連携手法の活用方策の検討
		省エネルギー化の推進	【計画書 P24】 ○千葉県による広域化の検討	【計画書 P40】 ○施設規模の適正化 ○水道施設で消費するエネルギーの低減化
	広域化の検討	【計画書 P15】 ○暫定井戸の代替水源の確保	【計画書 P40】 ○近隣事業者との連携に向けた取り組みの検討 ○より効率的な運営を図るための広域化の検討	
	安定水源の確保	【計画書 P15】 ○暫定井戸の代替水源の確保	【計画書 P41】 ○自己水源(深井戸水)のメンテナンス ○北千葉からの浄水受水の確保	

財政収支見通し(第6章)

- 平成 29 年度から平成 38 年度までの財政収支見通し

用語解説(第7章)

- 用語解説

【基礎資料編】

松戸市水道事業計画(素案)について

1 事業計画策定の目的

松戸市水道事業新基本計画に対する実施計画として、具体的な整備計画及び財政計画を策定します。

※ 計画期間 平成29年度～平成38年度

2 水道事業の概要

➤ 松戸市の水道
千葉県営水道と松戸市営水道のほか、根木内の一部に流山市営水道が給水

➤ 市営水道の沿革

名称	認可年月日	目標年度	竣工年月	計画給水人口(人)	計画一日最大給水量(m³/日)
小金地区水道事業					
創設	S34. 10. 17	S39	S37. 2	7,000	1,400
第1次拡張	S39. 1. 25	S40	S39. 9	14,000	2,800
第2次拡張	S41. 3. 3	S43	S43. 10	20,000	5,000
第3次拡張	S43. 3. 30	S44	S44. 10	20,000	7,000
第4次拡張	S46. 3. 31	S50	S50. 4	35,000	12,250
第4次計画変更	S48. 12. 21	S55	S54. 3	43,500	18,300
常盤平地区水道事業(日本住宅公団より移譲)					
創設	S45. 3. 30	S50	S45. 4	30,000	9,900
第1次拡張	S48. 12. 21	S55	S52. 3	42,000	17,200
松戸市水道事業					
第5次拡張	S57. 5. 26	H24	H21. 3	105,500	45,300

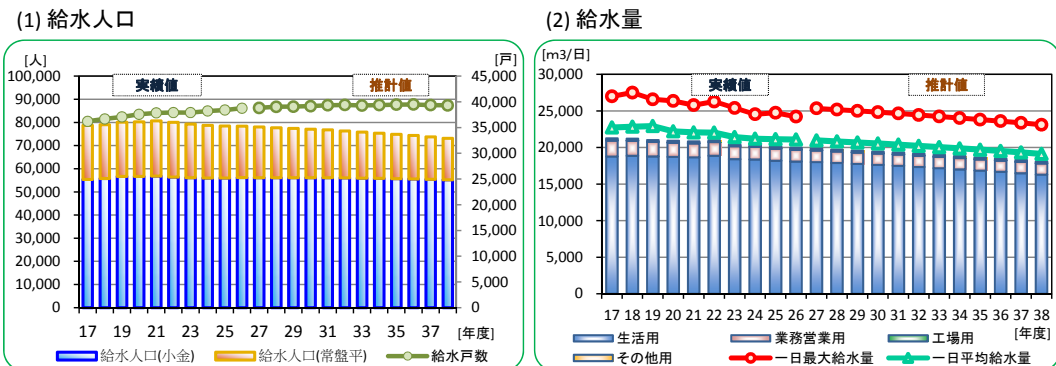
➤ 浄配水場
市営水道には、小金浄水場、幸田配水場、大金平浄水場、常盤平浄水場の4浄配水場

➤ 水源
市内19箇所の深井戸と北千葉広域水道企業団から浄水を受水

3 将来の水需要の見通し

過去の実績に基づき、給水人口・給水戸数並びに給水量を推計しました。給水戸数は増加傾向にあります。給水人口は減少傾向にあり、これに伴い給水量も減少傾向となっています。

松戸市では、少子高齢化に伴う人口減少を抑制するため、総合計画や総合戦略に基づき、さまざまな諸施策を展開しています。諸施策の推進は、給水人口や給水量の推計値に影響を及ぼすことが想定されるため、毎年度予算・決算時にあわせ点検を行ってまいります。



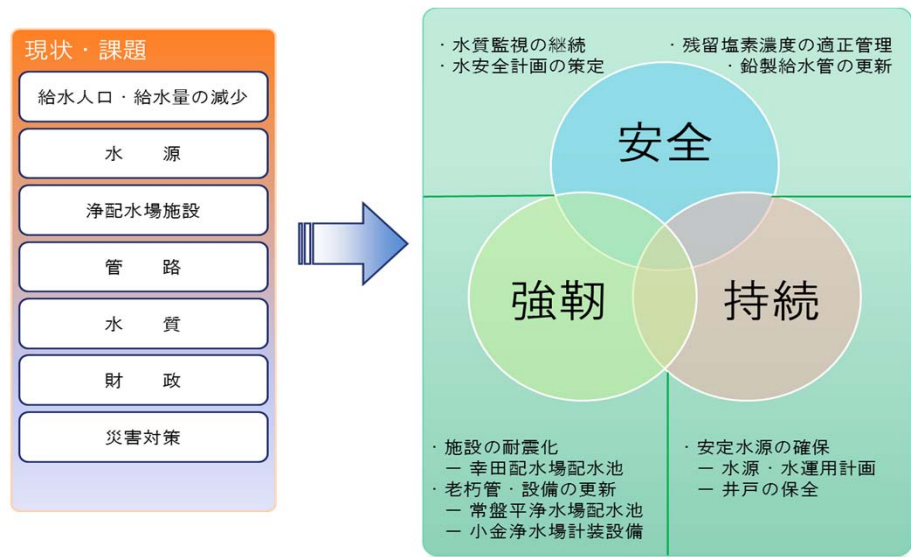
4 水道事業の現状・課題

安全・安心な水道水を持続的に供給していくための現状と課題は次のとおりです。

現状・課題	
給水人口・給水量の減少	・水需要の減少に見合った施設規模の適正化
水源	・深井戸運用の効率化 ・浄水受水協定水量に対する浄水受水量の効率化
浄配水場施設	・設備の適切な更新実施 ・施設の耐震化(幸田配水場、大金平浄水場、常盤平浄水場)
管路	・管路の耐震化 ・老朽管の更新
水質	・水質検査・水質監視の継続 ・塩素臭の改善 ・末端水質の監視
財政	・財政収支の適正化
災害対策	・自家発電設備の整備(幸田配水場)

5 事業計画

「安全」な水道水を「持続」的に供給していくため、施設の「強靱」化に努めていきます。計画期間中の取り組みは、次のとおりです。



(1) 施設整備・更新計画

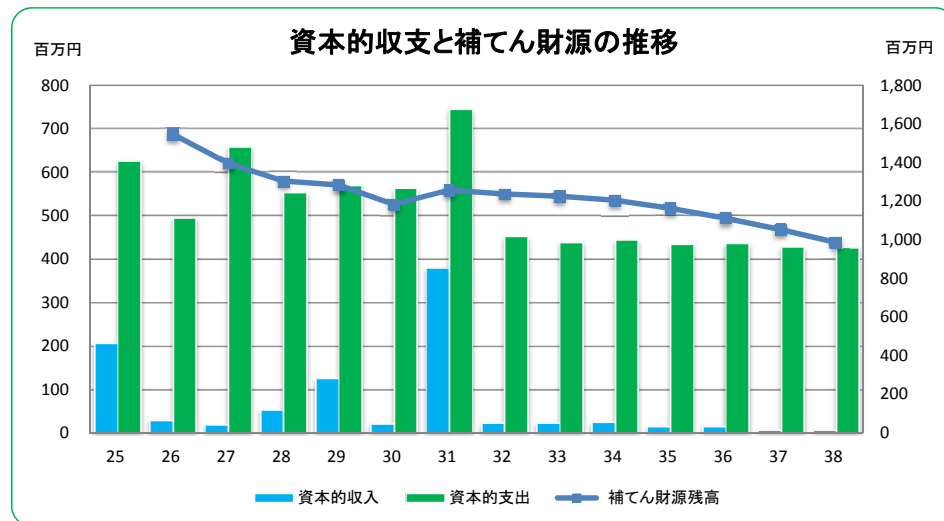
事業計画期間中には、ハツ場ダムの供用開始や次期総合計画のスタートなど水道事業を取り巻く環境が変わることから、施設更新計画を次のように設定します。

計画事業の進捗状況を的確に把握し、適宜、施設整備と財政収支見直しを見直していきます。

単位[百万円]	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
施設更新事業										
幸田配水場 配水池耐震化	135									
常盤平浄水場 第3配水池更新		134	314							
小金浄水場 計装設備更新				18						
その他 設備更新					総合戦略・次期総合計画(次期実施計画) との整合を図り決定					
管路更新事業	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180
計	315	314	494	198	180	180	180	180	180	180

② 資本的収支

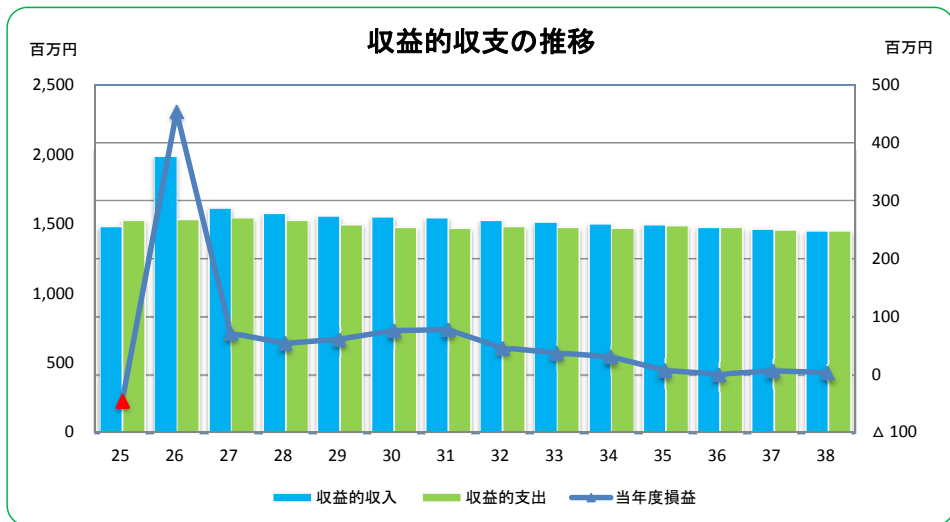
平成32年度以降は企業債の発行を見込んでいないため、補てん財源残高は緩やかに減少していきます。



(2) 財政収支試算の結果

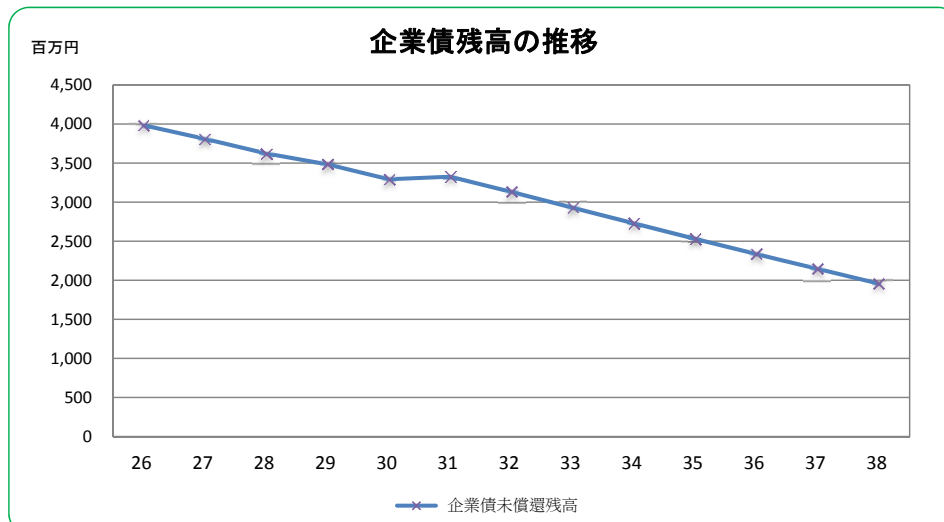
① 収益的収支

収入は給水量とともに減少していくが、収益的収入が収益的支出を上回る結果となりました。



③ 企業債残高

平成32年度以降は企業債の発行を見込んでいないため、企業債残高は緩やかに減少していきます。



財政計画

少子高齢化や水道利用者の節水意識の高まりから今後水需要は減少していく中で、給水区域内の市民生活や都市活動を支えるため、計画的に老朽施設を更新していく必要があります。水道事業を安定して運営していくためには、長期的な視点に立ち、健全な財政運営を持続することが求められています。引き続き、経費の削減に努めながら、健全かつ安定的な財政運営に努めてまいります。

単位：千円（消費税抜き）

区 分	年 度（平成）	2 5 年度	2 6 年度	2 7 年度	2 8	2 9	3 0	3 1	3 2	3 3	3 4	3 5	3 6	3 7	3 8	備考	
		決算	決算	決算													
収益的収支	収益的収入	1,482,085	1,986,288	1,612,733	1,575,984	1,557,555	1,549,193	1,543,218	1,526,272	1,514,124	1,501,272	1,492,015	1,477,450	1,464,455	1,451,621		
	うち料金収入	1,210,762	1,198,954	1,187,223	1,179,236	1,170,884	1,162,860	1,158,111	1,144,846	1,134,857	1,124,867	1,117,990	1,105,216	1,093,589	1,081,962		
	収益的支出	1,527,888	1,532,299	1,541,405	1,522,717	1,496,871	1,473,699	1,466,025	1,480,375	1,477,099	1,471,051	1,485,601	1,477,415	1,458,602	1,448,612		
	うち職員給与費	153,617	146,426	133,438	152,482	163,581	155,539	155,539	155,539	155,539	155,539	155,539	155,539	155,539	155,539	155,539	
	受水費	328,574	328,686	331,051	331,501	332,671	337,081	338,004	356,225	356,225	356,225	376,383	375,349	375,349	375,349		
	委託費	225,740	227,646	225,454	258,985	236,930	225,000	225,000	225,000	225,000	225,000	225,000	225,000	225,000	225,000	225,000	
	減価償却費・資産減耗費	525,332	543,651	620,932	557,692	555,001	558,963	555,474	555,607	557,471	556,915	558,082	556,055	542,182	536,665		
	支払利息	90,021	88,168	83,757	78,889	73,851	69,626	65,043	63,508	59,100	54,370	49,694	45,478	41,390	37,798		
	当年度損益	-45,803	453,989	71,328	53,267	60,684	75,494	77,193	45,897	37,025	30,221	6,414	35	5,853	3,009		

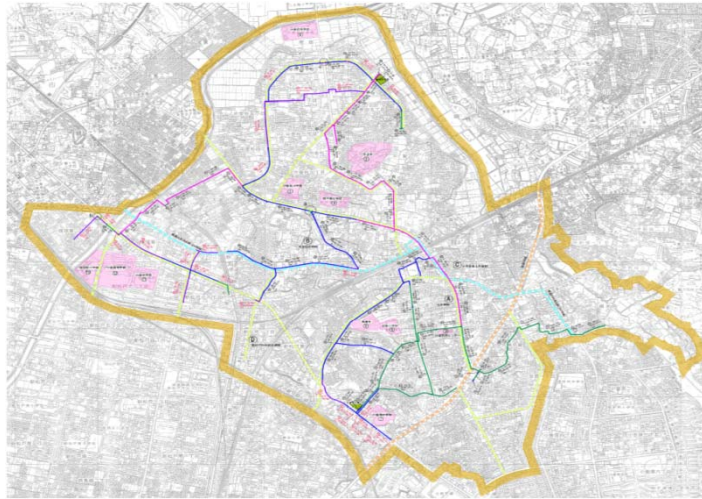
資本的収支	資本的収入	207,175	31,164	20,966	54,028	127,298	23,376	380,052	24,830	25,609	26,426	17,163	17,575	8,400	8,400	
	うち企業債	161,000	0	0	0	56,000	0	224,000	0	0	0	0	0	0	0	
	資本的支出	626,665	495,765	658,771	553,194	569,211	563,786	744,046	452,923	439,524	444,255	434,281	436,520	428,899	427,544	
	うち建設改良費	478,220	332,359	484,833	361,359	374,217	373,560	553,233	257,633	239,633	239,633	239,633	239,633	239,633	239,633	
	企業債償還金	148,445	160,203	173,938	186,835	194,994	190,226	190,813	195,290	199,891	204,622	194,648	196,887	189,266	187,911	
資本的収入額が資本的支出額に不足する額	419,490	464,601	637,805	499,166	441,913	540,410	363,994	428,093	413,915	417,829	417,118	418,945	420,499	419,144		

補てん財源残高	1,200,076	1,547,684	1,396,103	1,304,089	1,283,387	1,182,782	1,257,336	1,237,391	1,225,730	1,204,575	1,162,868	1,112,041	1,052,387	986,668	
---------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	---------	--

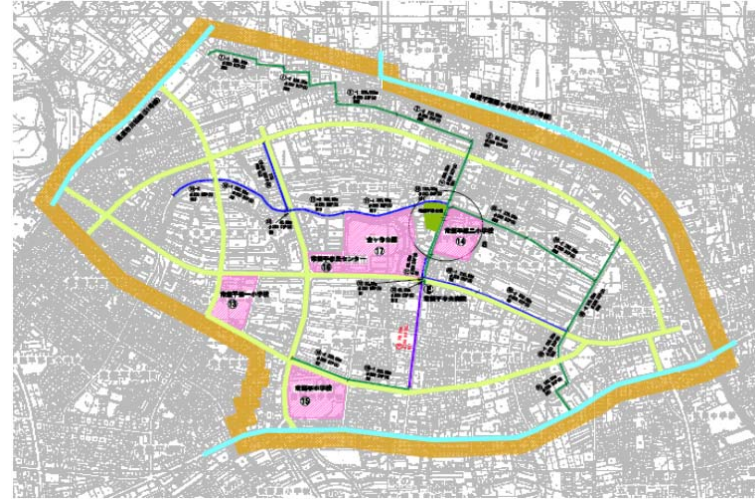
企業債未償還残高	4,142,726	3,982,523	3,808,585	3,621,749	3,482,755	3,292,529	3,325,716	3,130,426	2,930,535	2,725,913	2,531,265	2,334,378	2,145,112	1,957,201	
----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	--

施設耐震化計画書（配水管路）

小金地区配水管耐震化計画図



常盤平地区配水管耐震化計画図



市営水道では、導水管及びφ200 mm以上の配水管を基幹管路、φ200 mm未満の配水管を配水支管に分類しており、基幹管路について経年、管種・継手形式、緊急輸送道路及び避難所・病院等の重要給水拠点への給水システムの確保の条件から更新の優先順位づけを行い、基幹管路耐震化計画と配水支管の老朽管更新計画を策定した。

(1) 耐震化の状況

導・配水管延長約215kmのうち約23 kmにあたる配水管の基幹管路が布設されており、そのうち約21%の4.8 kmは布設替され耐震化されている。平成27年度末の状況として、小金地区基幹管路延長17,390mのうち約26%の4,530mが耐震化済みである。また、常盤平地区は基幹管路延長5,350mのうち約6%の350mが耐震化済みとなっている。なお、耐震化の必要な路線は約18 kmであり、更新に必要な概算事業費は約29 億円となる。

(2) 耐震化対象路線の選定

基幹管路の更新をアセットマネジメントで定めた基幹管路の耐用年数(40年)を目途に行うものとし、平成33年度(2021年度)からの更新を開始した場合、初年度から更新延長が約4 km、更新事業費は約9 億円と膨大な事業量の負担が必要となり、実施が困難な状況となるため、更新は、耐震化対象路線について評価を実施し、重要度、緊急度などの高いものから順次計画的(事業費の平準化)に実施していくものとする。

(3) 配水支管の更新計画

配水支管の更新については、アセットマネジメントの更新基準を参考に、更新費用の平準化に留意しつつ、60年が経過した管路を更新するものとする。

施設耐震化計画書（浄・配水施設）

幸田配水場



常盤平浄水場



浄・配水場で十分な耐震性能を有しているのは小金浄水場だけである。特に各施設のうち災害時に給水拠点となる配水池の耐震化は特に必要と考える。

(1) 幸田配水場

配水池を耐震診断した結果、十分な耐震性能がないとの判定結果が出ている。

小金地区にある3浄・配水場で給水量、配水池容量ともに半分以上の能力・大きさをもつ施設であることから運転を停止しての工事は不可能である。そこで運転を止めることなく配水池外周に杭を打ち、併せて側壁を補強することで十分な耐震性能を有することができる工法が最適である。完了すれば小金浄水場につき耐震性能を有する2番目の施設となる。

(2) 常盤平浄水場

場内に4池あるうちの一番新しい配水池を耐震診断した結果、十分な耐震性能がないとの判定結果が出ていることから4池すべて現行の耐震基準を満たしていないと考えられる。現在、配水池の耐震化に向け検討を進めているところだが、常盤平地区にある唯一の浄水場であり、震災時など応急給水の重要な拠点となることから、耐震化に向け、できるだけ早い時期の対応が必要である。

松戸市水道事業 アセットマネジメント報告書について(概要)

－ 総合戦略・総合計画との整合を図った事業推進 －

1 アセットマネジメント報告書の策定の背景と目的

- 厚生労働省は、平成25年度に策定した「新水道ビジョン」において、全ての水道事業者が地域水道ビジョン（新基本計画）の策定とあわせ、アセットマネジメントを実施し、将来の更新計画や財政収支を明らかにするよう求めています。

【定義】

新水道ビジョンに掲げた持続可能な水道事業を実現するために、中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化された実践活動

【概念】

中長期的視点(およそ30~40年以上)

更新需要

財政収支の見通し

重要度・優先度を考慮した更新基準の検討

資金確保計画の検討

技術的根拠と財源的な裏付けのある更新計画の策定と実行

【効果】

施設の評価と更新投資の平準化

事後対応から予防保全へ

更新需要と財政収支の見通し

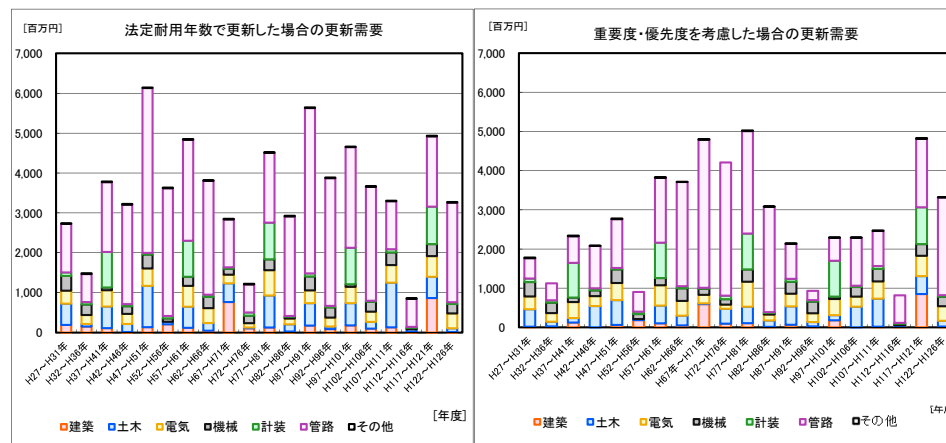
更新の重要性と必要性を説明

アセットマネジメントとは

- 水道水を安定供給するために、浄水場や配水管などの補修、更新といった維持管理と、そのために必要な費用を算定するためのツールです。

2 アセットマネジメント手法を活用した更新需要

- 法定耐用年数で更新した場合、向こう100年間の更新需要総額は715億円程度（年平均7.1億円）（左グラフ）。また、ピーク時の5年間（H47~51年度）には60億円の更新需要が発生。
- 重要度・優先度を考慮した場合の更新需要は、向こう100年間の更新需要総額は548億円程度（年平均5.4億円）（右グラフ）。また、ピーク時の5年間（H77~81年度）には50億円の更新需要が発生。



設備・管路の役割や機能に着目して重要度・優先度を設定

- 法定耐用年数で水道施設を更新すると、より多くの費用が必要となります。
- 全国的に給水人口の減少や節水型社会への変化により、給水収益が減少していくことを考えると、施設や設備の更新費用をどう確保していくかを合わせて考える必要があります。
- そこで、法定耐用年数を基本として、重要度の高い設備や管路を優先的に更新していくこととし、次の表のとおり更新基準を設定しました。

工種		更新基準の設定
建築	ポンプ室・電気室など	資産の重要度を考慮して、更新期間が長期にならない程度に法定耐用年数の1.5倍または2倍にする。
	井戸・配水池など	法定耐用年数を基本とするが、耐用年数の短い水源関連は1.5倍、重要度の低い資産は1.5倍または2倍にした。
電気	自家発電設備など	法定耐用年数通りとした。(ごく一部を除く)
機械	配水ポンプなど	
計装	遠隔監視装置など	
管路	導水管・配水管	基幹管路(導水管・場内配管及び口径200mm以上の配水管)は法定耐用年数通りとし、それ以外の配水管及び付帯設備は1.5倍とした。
	給水車	法定耐用年数の2倍とした。

3 アセットマネジメントの活用等

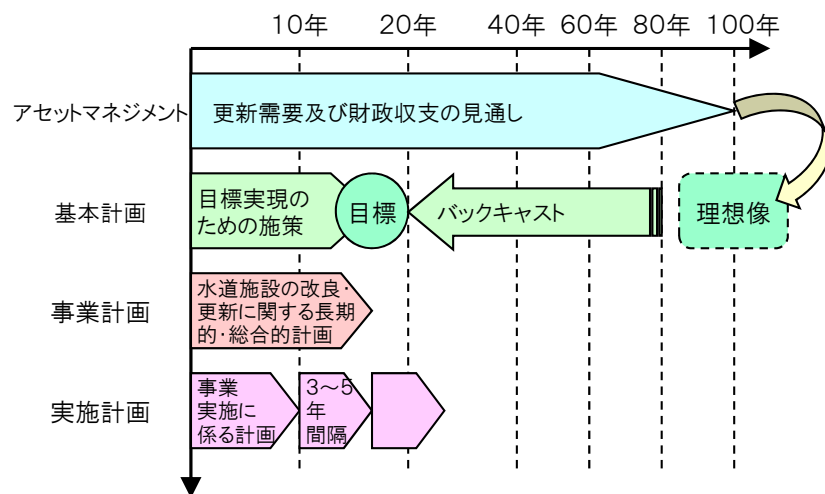
(1) マクロマネジメントのレベルアップ

- ・今回のアセットマネジメントは、マクロマネジメント（全体管理）の手法により、**固定資産台帳に登録される資産**を厚生労働省が提示する資産管理水準に基づき検討を行いました（**標準型 3C**）。
- ・最終的な資産管理水準として、水道施設の再構築や施設規模の適正化を踏まえ、更新需要以外の変動要素も考慮した財政シミュレーションを実施する「**タイプ4D（詳細型）**」を理想としています。
- ・今後、「タイプ4D」の水準にあげるため、資産台帳情報の最適化、メンテナンス情報の整備を図っていきます。

財政収支 更新需要	タイプA (簡略型)	タイプB (簡略型)	タイプC (標準型)	タイプD (詳細型)
タイプ1(簡略型)	1A	1B	1C	—
タイプ2(簡略型)	2A	2B	2C	—
タイプ3(標準型)	3A	3B	3C	—
タイプ4(詳細型)	—	—	—	4D

(2) 更新需要・財政収支見通しの活用

- ・マクロマネジメントの実施により得られた中長期的な更新需要及び財政収支見通しの方策を「基本計画」や「実施計画」等に適宜反映していきます。



(3) 総合戦略・総合計画との整合を図った更新需要・財政収支の予測

- ・水道事業新基本計画（事業計画含む。）は、50年、100年先の水道事業の将来像を描きながら、平成29年度から平成38年度までの10年間の取り組みを事業計画として策定しています。
- ・上記の事業計画期間中には、**八ツ場ダム等の供用開始**や**次期総合計画**のスタートなど**水道事業を取り巻く環境が変わること**から、下表のとおり水道施設の更新を図っていきます。
- ・更新需要の設定にあたり、アセットマネジメントと事業計画との整合を図る観点から同様な更新需要・財政収支見通しとします。

単位[百万円]	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
施設更新事業	135	134	314	18	-	-	-	-	-	-
幸田配水場 配水池耐震化	135									
常盤浄水場 第3配水池更新		134	314							
小金浄水場 計装設備更新				18						
その他 設備更新										
管路更新事業	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180
計	315	314	494	198	180	180	180	180	180	180

安全性に配慮した水道施設の維持管理を行っていきます



- ・水道施設の更新には多額の費用がかかることから、適正な維持管理を行い、安全性を考慮したうえで、更新費用の平準化に努めていきます。
- ・総合戦略や次期総合計画の推進により、施設整備の規模が変わることが想定されます。
- ・計画事業の進捗状況を的確に把握し、適宜、施設整備と財政収支見直しを見直していきます。

松戸市水道事業新基本計画 概論

○国の考え

アセットマネジメント手法（国の手引きにより算出）に基づく
資産管理・財政収支見通しの把握

○水道部の考え

平成32年度までの5年間（後期基本計画・第6次実施計画期間内）

- ・耐震化工事の実施(幸田配水場配水池ほか)
- ・老朽管の更新
- ・運営管理の検討(大金平浄水場 平成31年度末休止ほか)

平成33年度以降（次期総合計画・次期基本計画期間）

- ・環境変化への対応(事業運営の見直し検討)
- 小 金地区 ⇒ 北小金駅周辺のまちづくり
- 常盤平地区 ⇒ 常盤平地区のまちづくり

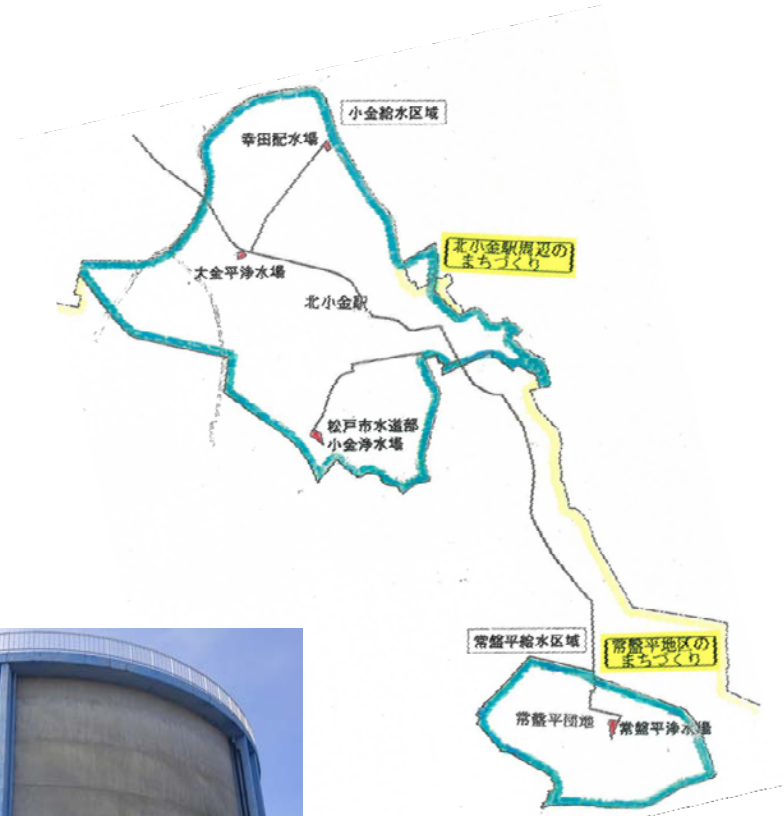
～ 人口動態を見据えた
適正な「施設更新計画」の策定 ～

まちづくり政策との強い連携

(人口増加)⇒(給水収益増加)⇒(経営状況好転)

今後について

PDCAサイクルに基づき、点検・修正を図ります。



幸田配水場 配水池

松戸市営水道キャラクター「まっつい〜」

松戸市の「M」の文字と「ハート」を組み合わせてデザインされています。
「ハート」は尊い水に対する愛情をイメージしています。



